

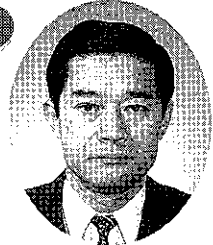
ばってん

第 10 号

発行 長崎県公立学校事務長会
長崎南高等学校内
〒850-0834 長崎市上小島4-13-1
電話 095-824-3134
編集 広報活動委員会

ともに一層の頑張りを

会長 松尾 隆 行 (長崎南高等学校)



爽秋の季節となりましたが、会員の皆様にはますますご清祥にて職務にご精励のことと存じます。

去る8月8日、悲しいことに長崎東高校の杉内純一事務長が亡くなりました。杉内事務長は、本年4月に本会の会員となりましたが、それまでは、ご承知のとおり県教育庁等に勤務し、その豊富な行政経験と幅広い識見は誰もが認めるところでした。これから、事務長会の発展のため、いろいろと知恵を拝借したいと思っていましたので、誠に残念で、淋しい限りです。安らかに眠られることを、会員の皆様とともに祈念したいと思います。

さて、私、春の事務長会総会で会長を仰せつかり、早や5か月が経過しました。もとより非力な私ですが、お引き受けしたからには全力を傾注せねばと思ひ、会の運営に当たっているところです。お陰様で、総会で承認いただきました本年度の事業も、副会長はじめ理事の方々の尽力により、順調に推進されているところです。

ところで、ご承知のとおり全国公立学校事務長会では「事務長の職務・職制の法制化」を掲げ、活動しているところです。去る8月23日、全国公立学校事務長会理事会が開催されましたが、その際、この法制化が実現しないことについて、その取り組み状況、隘路等について厳しい質問等がなされました。それに対し、会長から、昨年と同様の回答に加え、次のような説明がありました。

昨年、教育関連法案が改正されたが、その改正に当たり、文部大臣は、中央教育審議会へ「今後の地方教育行政の在り方」を諮問した。その中教審の審議の過程で、全国事務長会に意見陳述の場が与えられ、6項目について意見を述べた。4項目は答申の

中に採択されたが、2項目は不採択となった。その2項目は、主任の法制化と事務長の法制化で、主任の法制化は議論のうへ時期尚早とされたが、事務長の法制化は全く議論がなされなかった。そのことから、察していただきたい。

私は、その説明を聞き、この法制化の願ひは全国事務長会発足以来のものであり、それが中教審の議論の俎上にものらなかつたことに、非常なショックを受けました。他の出席者も同様であったようです。一つの救いは、全国事務長会に意見陳述の場を与えられたことかな、と思うところです。

全国本部では、今後とも要請活動を続けていくわけですが、これが実現には、各都道府県事務長会の各教育委員会への働きかけ、そして、なによりも個々の事務長の日頃の頑張りがあってこそだと思います。

会員の皆様には、一層の研鑽と実践を深められ、学校運営の責任者の一人としての役割を大いに発揮していただければと思います。また、法制化への道りは遠いようで、後々に引き継がれていくものと思いますが、後進の育成も図っていただければと思います。

広島県では、全国で初めて県立高等学校の校長に事務長を登用したそうです。文部科学省初等中等教育企画課長(当時の教育長)は「1年後に評価がなされるであろうが、今のところ上々である」と全国事務長会の講話で話されましたが、誠に朗報で、当該校長にはますますの活躍を望むところです。

また「これからは経営(マネジメント)の時代である。事務長のポジションの妙味を大いに生かして欲しい」と期待を込めて話されました。

その期待に背かないよう、ともに頑張りたいものです。

新入会員のプロフィール

平成13年10月1日に入会された方のプロフィールを紹介いたします。

阿比留 徳 生

長崎東高等学校



- ・好きなことば
温故知新
 - ・事務長としての抱負など
ポチポチやらさしてもらいます。
- 年度途中、何かとお世話になると思いますので、よろしくお願いいたします。

—第23回九州地区公立学校事務長会から

島原工業高等学校 本村 英 幸

第23回研究協議会は、6月6日～8日の三日間の日程で、佐賀市で開催され(参加者220名)、本県から34名が参加しました。

今年は、『学校経営における事務長の職務と諸問題の研究協議並びにその実践』というテーマで二題の研究発表及び六県からの研究課題が提案されました。研究発表は、先ず、宮崎県から「教育行政改革に関連した見解のとりまとめと教育委員会への提言等その取り組み状況について」が、次に佐賀県から「総合学科改編へのかかわり」が発表されました。

1. 「教育行政改革に関連した…」は、平成10年度に出された中央教育審議会答申「今後の地方教育行政の在り方」を受けて、都道府県教育長協議会は研究を行い、学校評議員制度導入、校長任用などに関する方向付けを行っています。

宮崎県立学校事務長会では、この改革方針に沿い、社会情勢や地域の要求に対応できる学校組織の整備や学校内における事務長の役割を整理・強化するための事務管理機能を整備を図ったなどの発表がありました。

2. 「総合学科改編への…」は、多様化する生徒の個性の伸長や生徒数の減少等に対応するため、平成14年度から総合学科へ改編する多久工業高等学校の基本構想、施設整備計画が示されました。

それによると、現在ある機械科、情報システム科、電気科の3科5学級を総合学科5学級とし、人文科学系列、自然科学系列、工業技術系列、健康福祉系列など6系列の科目群を設置し、普通系にも工業系、商業系、福祉系にも対応できるように計画されています。

3. 研究協議については、「授業料未納対策について」、「変革の時代に事務長は何をすればいいのか」、「修学旅行・卒業アルバム契約事務の手引きの作成について」、「学校徴収金と事務長の役割」、「購買部運営と事務長の関わり」、「教育改革と事務職員定数について」の六つの研究事項が協議されました。その中で、本県でも対応に苦慮している授業料徴収については、定められた期限内に完納させる有効な方策はないか問題点の把握及び改善策、また、修学旅行やアルバム作成の業者選定・契約事務については、事務長も積極的に携わり、更に、

契約までのマニュアルを作成するなど研究がなされてきました。

4. 特別講演は、「九州邪馬台国」と題して、佐賀女子短期大学(前佐賀県教育次長)の高島忠平氏の講演がありました。氏は、平成2年に吉野ヶ里遺跡が発見されて以来、同遺跡の発掘調査及び保存整備の陣頭指揮を執られました。邪馬台国九州説の立場から魏志倭人伝と卑弥呼そして日本古代国家の成立過程について、いろいろな事例を取り上げて話をされました。(来年の大会は、福岡市で開催されます。)

—第25回全国公立学校事務長会から—

鳴滝高等学校 増山 良 明

本年度の全国公立学校事務長会は、8月24日に東京都で開催され(参加者約1,000名)、本県から19名が参加しました。

1 開会行事で全国事務長会の牛丸会長は、あいさつの中で教育改革の推進には、「現場の積極的推進が必要である。しかし、教育職員の意識改革はあまり進んでいない。その原因は、学校組織に問題がある。校長のリーダーシップだけでは、実効性がなかなか得られない。

『学校の常識は社会の非常識』とも言われている。学校経営の責任は事務長も担うべきであり、学校教育の進展のためにも事務長の職務・職制の法制化と管理職の指定が必要である」と話されました。

功労者表彰では、本県から諫早高校の田中事務長が表彰されました。おめでとうございます。

2 文部省講話は、初等中等教育企画課の辰野裕一課長が話されました。その内容は次のとおりです。

「今回の教育改革の始まりは、昭和58年の臨時教育審議会である。この改革は、平時の改革なのでなかなか困難である。21世紀教育育成プランの中の教育改革関係6法案の具体化はこれからである。高等学校でも、今後学校の淘汰の時代となる。生き残りのため、総合学科、単位制、中高一貫教育等新しい改革案が出てきた。今後もシステムを柔軟にし、特色ある事を実施していかなければならない。学校経営の充実のためには、免許のない民間人や事務長からの校長登用が必用となる。広島では、小中高に民間から1名、事務長から1名登用があった。今後は、学校経営から考える必要がある。

事務長は、校長を補佐すべきだが、自分の意見を持つことも大切である。自分のポジションの魅力を生かし、意志決定へ参加してほしい。学校を動かす力を持っていただきたい。」

3 講演は、伊藤幸男氏が「私の生い立ちと米国の公立学校」という演題で話されました。

その内容は次のとおりです。「私は、日本で戦前と戦後の教育とアメリカでの教育も受けました。その経験から思うに、日本の教育改革は、日本が古来持っているものを生かしていくのがいいと思う。そして、日本とアメリカの今後は、双方の国民性を理解すれば共に生きていけるのではないか。」

4 総会の中では、新会長に作道年正氏が選任され、その他、事業計画(案)、予算(案)等提出議案は全て原案どおり可決、承認されました。

5 研究協議会

(来年の大会は、神戸市で開催されます。)

海散歩にトライしてみませんか

長崎北陽台高等学校 山元 禎三

皆さんは、荒々しい白波が打ち寄せる断崖絶壁や複雑に入り組んだ海岸線に点在する島々、また、波静かな湾内に映える夕日に感動されたことが幾度となくあることと思います。

この恵まれた大自然のフィールドをひと味違う方法で心ゆくまで満喫できる素晴らしい乗り物をご紹介しますと思います。

最近、テレビなどで小さな子供達が一本の櫂（パドルといいます）を巧みに操って、小舟で水面をアメンボウのように自在に動き回っているシーンをご覧になった方も多いと思います。このカヌーのような小舟がカヤックです。

外洋を航行できるシーカヤックにはシングル艇（1人乗り）とタンデム艇（2人乗り）があり、足踏み式の舵（ラダー）が装備されています。コクピットの前後のハッチは密閉式になっているので沈む心配はありません。

5分程パドルの操作を習ったら、すぐ乗船です。パドルを水面に入れゆっくり手前に引くと、滑るようにシーカヤックが前進を始めます。15分も練習すれば湾内（港内）なら自由に動けるようになります。

それでは、これから海散歩へご案内しましょう。初めての航海には、波静かで変化に富んだ島々の景観を堪能できる九十九島が最適でしょう。釣り道具やバーベキューセットを積んで、無人島を目指しましょう。

シーカヤックは水面と同じ目線で航行するため、今ま

で経験したことのないような光景が目飛び込んできます。海面に浮かんでいる鷗や岩礁で羽根を休めている海鷗も人間を気にする様子もなく5～6mの近さまで漕ぎ寄っても、全く逃げる気配すらしません。また、波しぶきに驚いた小魚の群れが銀鱗を光らせて水面を逃げ惑う様子は壮観です。

奇岩や白砂青松に彩られた大小の島々が走馬灯のように変化していきます。島影を出た途端、音もなく現れたシーカヤックに磯釣りをしていた人がびっくりしてこちらを見えています。釣りの邪魔にならないよう舳先を沖合に向けて静かにその場を離れましょう。

疲れてきたら無人の砂浜を見つけて上陸です。よく冷えたビールを飲みながらバーベキューパーティを始めるもよし、釣りにダイビングに興ずるのもよし、気の向くままに日頃の疲れを癒しましょう。

夕日が空と海を金色から茜色に染めていき、無数の島影が幻想的なシルエットを描きはじめました。

そろそろ、帰港の時間が近づいてきたようです。それでは皆さん、海上でお会いできる日を楽しみにお待ちしております。



ひまわり会旅行記

「7月7日～8日、1泊2日でひまわり会の旅行に行ってきた。」こう言う「ひまわり会ってなんの会？」と、大方の人は尋ねる。

ひまわり会とは、某高校のある時期のPTA役員であった人たちの会である。PTA役員のOB会なんて全国的にも珍しいのではないかと思います。

結成以来毎年、忘・新年会と旅行をしているが、平戸、宮崎、伊王島、別府と続いた旅行は、ついに九州を出て京都に行くことになったのである。暑さに弱い私は京都の暑さをよく知っているので、思いとどまらせようとしたが無駄な努力であった。

「行かにゃよかたい」と思うでしょうが、そうもいかないのである。

最初の旅行からずっとプラナー兼ナビゲーターをやってきた私なしでは、旅行できないからなのである。旅行者より安価で綿密なプランをまず見ることによって彼等や彼女等はこれまでも、まず最初の欲望を満たしてきたのである。

12名（男女各6名）で旅行ということになった。目的地が遠いから当然であるが、例年より参加者が少ない。早朝、会員所有のマイクロバスが布津から順に会員を拾って長崎空港へ。伊丹空港から格安のマイクロバスのレンタカーで京都へ向かった。

嵐山の美空ひばり館を出たところで問題その1が発生。

女性若干名が人力車に乗りたいという欲望を抑えきれないのである。島原の男は優しくて忍耐強い。旅行も5回ともなれば慣れっこで、最後に時間の帳尻が合えばよいとばかりに桂川の畔の日陰で20分程一休みして、満足そうな顔で人力車から降りてくる彼女らを待った。

太秦映画村を出て、二条城に向かう途中で問題その2発生。車の冷房が利かなくなったのである。炎天下、冷房なしはつらい。二条城でレンタカー会社の京都営業所に連絡応急処置をしてもらおう。京都御所に向かったが、また冷房が利かない。ディーラーに乗り付け整備士に見てもらおう。整備士も首を傾げるが、取り敢えずコンデンサーを取り替えてもらった効くようになった。

ホテルに着き、暑さのせいかな、ことのほかおいしいビールを飲み食事をして、祇園祭の見学にでかける。

翌日、清水寺から知恩院へと向かったところで第3、4の問題発生。「某店のあぶらとり紙を買って帰らなければならない」というのである。店を教えて近くで降ろし、合流地点を教えて時間調整をする。（4つ目の問題はマル秘）

西本願寺を見学し終えてマタマタ予定外で京都駅により女性軍の購買欲を満ちし、伊丹から最終便の飛行機で帰った。

会が発足する前のPTA研修旅行の時から、人の夫と人の妻が集まっての旅行であるから、危ないことになりはしないかと、気をもんだりしたものである。事実初めのうちはハラハラするようなこともあったが、最近性別を超越した友人として仲良く愉快につきあえるから面白いものである。

前からの懸案であった旅行積み立ても始めたし、愛すべき愉快的仲間、たくましい女たちと優しい男たちと共に来年は壱岐にでも行こうかと思っている懲りない私である。

随想

つばき



弓道に思うこと

教育庁教職員課長 池田和明

高校時代でやめていた弓道を、平成9年に対馬へ転勤したことがきっかけで30年ぶりに再開することになりました。

散歩の途中で何気なく立ち寄った対馬高校の弓道場で、「社会人が利用できる弓道場で町内にありますよ。」と教えてもらい、単身赴任で下戸の身、夕方の時間は有り余るほどあり、早速入門し、土日はもちろん平日の夕方も用事がないときは、弓道場に通り詰める毎日でした。弓道の礼儀作法も殆ど忘れてしまっていましたので、四十路半ばでの手習いとなり、地元の弓道の師範には大変お世話になったものです。いくらか上達し、島内での大会や、対馬代表として初めて県体に出場させてもらったのも、良い思い出になりました。

その後、転勤して長崎に帰ってきてからも、土日など暇を見つけては、弓道を趣味として続けておりますが、続けていくうちにだんだん弓道が難しく思われてきています。

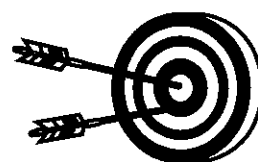
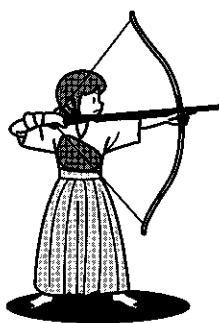
初心者の中には、ただ当てるのがおもしろくて、体力頼みで引いているわけですが、少しずつ上達するにつれ、心の持ち方、呼吸の仕方などが、弓を引くのに重要な部分を占めているのがわかってきますし、スポーツとしての当てる弓ではなく、弓を引くことを通して自己修養につなげたいという気持ちになってきました。

例えば、昇段試験前には、その段位にふさわしい弓を引こうとして懸命に努力します。その結果として実力を認められ段位を認定させるわけですし、また、実際に昇段するとその段位にふさわしい弓を引いていこうと思うわけですが、これがなかなか難しいのです。知らず知らずのうちに、楽な引き方をしたり、変な癖がついて、射形が崩れてくるのです。

以前、上司から、「ひとは、ポストが上がるのを嬉しいがるがそれはいつかのこと、そのポストを務めていくということが、大変なことなんだよ。」というような意味のことを聞いたことがありましたが、最近ではそのことを弓道とだぶらせて考えたりしています。

弓道をやっている、確かに段位があがるのは嬉しいことですが、それにふさわしい力を維持していくためには、常に自分の射形、息合い、心の持ち方などをきちんとするように心がけ、人からの指導も素直に聞くことが大切なのです。それがないと、基本をおろそかにし、安易な引き方をしたり、我流に陥ることがよくあります。高段者の中にも、いつのまにか、その段位とは思えないほど風格のない射になってしまっている人を見かけることがありますし、まだまだかけ出しの私自身も幾度となく射の乱れを指摘され、反省することばかりです。

短くて拙い弓道経験のなかからですが、弓も仕事も同じこと、常に自己を省みながら一步一步上達に努めなければいけないと感じている今日この頃です。



編集後記

例年になく猛暑続きの今年の夏、10月になった今でも夏物が活躍しています。とは言いながらも、さすがに朝夕は肌寒く秋の訪れを感じます。10月1日付で会員になられた阿比留先生をお迎えし、13年度後半がスタートしました。創立記念周年事業や体育祭・文化祭など盛りだくさんの行事が各校で開催されております。

爽やかな風のもと、スポーツ・読書・旅行など健康に趣味に絶好の季節になりました。スポーツの秋にふさわしく、池田和明先生の弓道のお話、海の散歩を満喫している山元禎三先生、ご多忙中にもかかわらず寄稿していただきありがとうございます。お気づきでしょうか。“ひまわり旅行記”には作者名がありません。誰が書いたのだろうかという秋の夜長にいろいろ思いついてはいかげんかでしょう。そして、次の号にはぜひあなたの傑作をご披露ください。また、“先輩からのメッセージ”もお楽しみにお待ち下さい。

澄みきった青空に、島原城の天守閣が白く輝いて見えます。祭り太鼓の音が遠くに響いております。この青空の遠い遠い向こうの空は、同じ空なのに暗い色をしているのだろうか、その暗い空には祭り太鼓ではなく、爆撃音が響いているのだろうか、など、ふと仕事の手を休めて思いにふけております。そして、エジプトに転勤になった知人のことを案じながら天守閣を見上げている午後のひとときです。

(山戸)